

【参考資料】

# 鹿島町和牛改良組合の取り組み事例について

島根県

## 1 地域及び和牛改良組合の現状

島根県松江市鹿島町は、県東部に位置する中間農業地域で、人口約8,400人、耕地面積306haで、農業分野では水稲を中心に畜産、野菜が基幹作物であり、農業全体に占める畜産の産出額割合は約23%となっています。

しかし、県内の他の地域と同様に高齢化が進み、戸数・頭数とも減少傾向にあることから、地域内で連携した生産活動の取り組みが求められていました。なお、平成16年2月現在、鹿島町和牛改良組合は、組合員6名で、和牛約110頭（繁殖雌牛45頭、肥育牛62頭）を飼育しており、組合員数は減少しているものの、平成16年度には繁殖和牛頭数は増加に転じてきています。

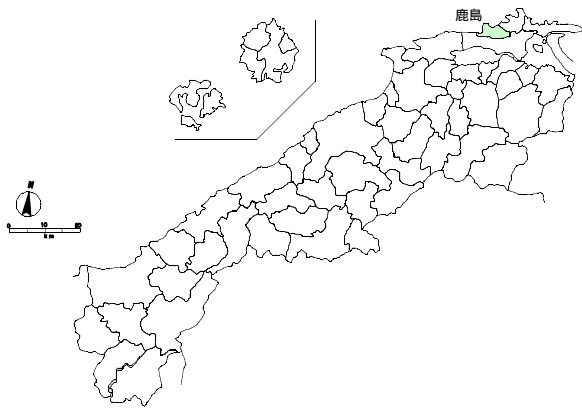


図 - 1 鹿島町の位置

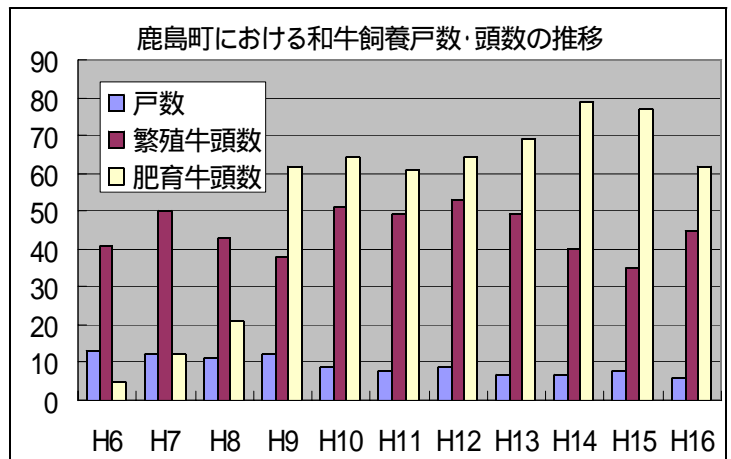


表 - 1 鹿島町の畜産の概要

## 2 放牧場整備の取り組み経緯

このような状況のなか、飼養管理の省力化・低コスト化を図るため、和牛の放牧を実施してはどうかとの意見があり、平成11年度には、県内放牧先進地である隠岐島に視察に行きました。

隠岐島の取り組みは、改良組合にとって非常に参考となり、町内での放牧場整備に向けた気運が高まりましたが、具体的な設置箇所となると、なかなか条件に見合う土地が見つかりませんでした。



写真 - 1 放牧場から日本海を望む

その時、町内の漁業協同組合が所有する海岸部の森林が松枯れ被害のため荒廃し、森林再生が課題になっていることを知り、その土地で放牧してはどうかと地区漁業者との協議が行われました。当初、山に牛を放牧することに対する不安から地元同意が得られませんでした。関係機関・団体の支援により、平成13年12月に国庫補助事業を導入して試験的な放牧場を設置できることになりました。



写真 - 2 試験放牧場看板



写真 - 3 入牧時の様子

### 3 森林再生型放牧

森林再生型放牧とは、牛に雑草を食べさせながら、不要木などを伐採し、有用な木を大きく育てて森を再生するため、松枯れなどで荒廃した森林に放牧するものです。

主なメリットとしては、飼養管理の低コスト化・省力化、有用林による森林の再生化、海への土砂や濁水の流出防止、魚介類の餌となるプランクトンや海草類の生育促進などが挙げられます。



図 - 2 森林再生型放牧システム体系図

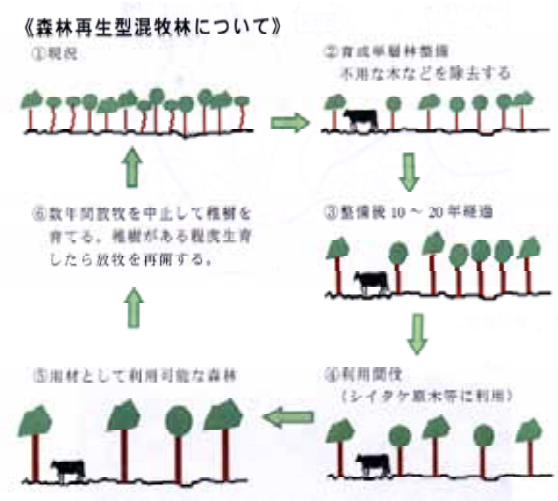


図 - 3 森林再生型混牧林について

## 4 放牧の効果

実際に荒廃した森林に放牧すると、牛の採食により、短期間で雑草は無くなりました。

このような放牧の効果を目の当たりにして、当初は不安があった地区漁業者も放牧の有効性を認識され、さらなる土地の提供を申し出られるまでになりました。また、放牧を行ってきれいになった土地には、広葉樹の森づくりを進めるため、町内の小学生も参加して植樹祭が行われました。

平成15年度には7ha、平成16年度には13haをさらに整備した結果、現在、放牧場の面積は約23haまで拡大しました。このことで、飼養管理の省力化と地域内の自給飼料の増産につながるとともに、放牧場面積及び放牧経験牛も確実に増えてきています。

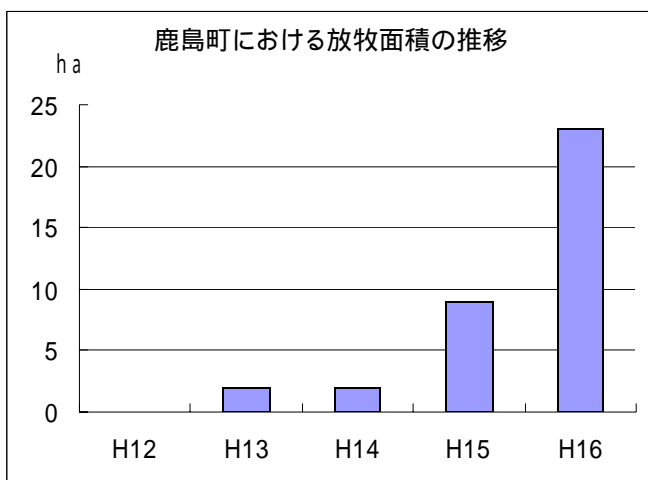


図 - 4 鹿島町における放牧場面積の推移



写真 - 4 植樹の様子

## 5 取り組み上の課題及び対策

当組合が取り組んでいる森林再生型放牧においては、主に野草を利用しているため再生力が低く、年を経るにつれ草量が不足し、放牧期間・頭数の調整を行わざるを得ない状況であり、その解決が最大の課題となっています。そこで、平成15年度から、県畜産技術センターの協力により暖地型牧草を栽培し、鹿島町の放牧場に適した品種の検討を行っているところです。

また、夏場には飲料水が不足しますが、この毎日の水の運搬作業が組合員の負担になっていたため、給水施設の整備を行うとともに、効率的な授精作業による省力化を図るため、放牧場に捕獲用パドックを整備しました。



写真 - 5 捕獲用パドック

## 6 おわりに～将来展望～

現実的には難しい面も多々ありますが、今後は、放牧場付近にアパート牛舎を整備し、組合員の牛の一元管理を図るとともに、新規就農者の参入や繁殖肥育一貫経営の推進につながることも考えています。

さらに、将来はここで生産した牛肉を地元の精肉店等で販売し、消費者に「安心・安全」な牛肉を提供したり、地域の子供たちにも体験学習（栗拾い等）や牛と触れあえるような牧場への夢も描いています。

夢の実現に向け、引き続き関係機関で支援しながら取り組みを推進していきたいと考えています。



写真 - 6 現在の様子